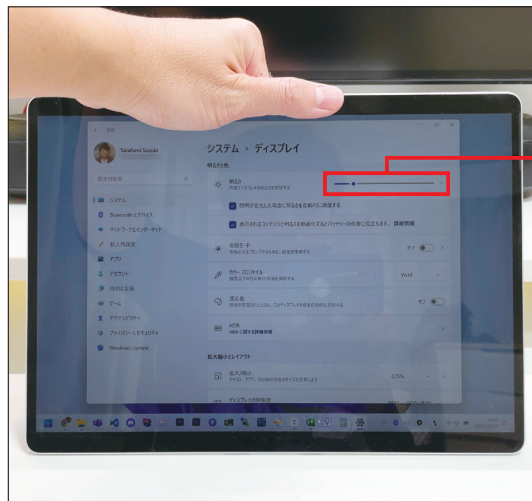


# 画面が勝手に暗くならないようにする

Windowsには省電力も兼ねて画面を勝手に暗くする機能があります。場合によっては暗くても見づらくなるので、その機能はオフにできることを覚えておきましょう。



7 試しにオンになっている状態で照明センサーのある画面上部の枠を手で隠してみましよう。

8 画面が暗くなるとともに「明るさ」のスライダーが下がっていくのがわかります。



9 このように画面が勝手に暗くなる挙動を止める場合は、「照明が変化した場合に明るさを自動的に調整する」をオフにします。

10 これで部屋の照明に応じて画面の明るさが変わることはなくなります。ただし、この機能はバッテリー時間を延ばすことにも寄与しているので必要に応じて切り替えるようにしましょう。

## OnePoint 画面の明るさとバッテリーの関係

ノートパソコンでバッテリー時間に大きく関係するのが画面の明るさです。画面を明るくしすぎるとバッテリー電力を大きく消費しバッテリー切れが早くなります。近くに電源がなくどうしてもバッテリー時間を延ばしたいときは自分が見えるくらいの明るさに設定するとよいでしょう。

## 照明が変化したときの明るさ自動調整をオフにする



- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [システム] をクリックし、
- 3 [ディスプレイ] をクリックします。



- 4 [明るさ] の右端にある∨をクリックすると、
- 5 サブメニューが開きます。
- 6 [照明が変化した場合に明るさを自動的に調整する] がオンになっていると、部屋の照明が明るいときは画面が明るくなり、部屋の照明が暗いときは画面が暗くなります。

SECTION

023

カスタマイズ

# 同時押しでなくても キー操作できるようにする

一般的に同時押しで使う **Ctrl** キーや **Shift** キーは、Windowsの設定で同時押しでなくても使うことができます。同時押しがしにくい場合は固定キー機能を有効にしてみましょう。

## 固定キー機能を有効にする



- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [アクセシビリティ] をクリックし、
- 3 [キーボード] をクリックします。



- 4 [固定キー機能] の項目でスイッチを [オン] にします。

### OnePoint ビープ音を参考にする

固定キー機能を有効にすると、たとえば、ファイルを保存するときのキーボードショートカットで **Ctrl** + **S** キーを同時押しするときに、**Ctrl** キーを押して離れたあとに **S** キーを押しても保存されるようになります。これは **Shift**、**Ctrl**、**Alt**、**Fn** キーにおいて適用されます。この機能が有効になっているときは **Shift** キーなどの裝飾キーを押したときにビープ音が鳴るのでそれを聞き分けて使うとよいでしょう。

SECTION

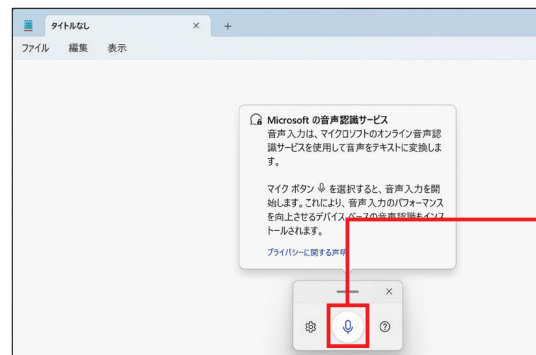
024

カスタマイズ

# 文字を音声で 入力できるようにする

Windowsはマイク直接しゃべりかけた音声でそのまま文字入力する機能を備えています。日本語も対応していて認識精度も上がっているため効果的に活用していきましょう。

## 音声で文字を入力する



- 1 何か文字入力できるところにカーソルを移動して、
- 2 **Win** + **H** キーを押すと、
- 3 音声認識ウィンドウが起動します。
- 4 マイクのアイコンをクリックし、



- 5 その状態で Surface にしゃべりかけるとそれが文字入力となります。

### OnePoint 効率的な文章入力

句読点や改行などは対応していないので適宜キーボード入力も組み合わせると効率的です。筆者も試したところ日本語でも音声認識精度はかなり高いことに驚きました。完璧な文章作成には厳しいとは思いますが、考えたことをしゃべってとりあえず文字入力したいときに便利な機能です。

第1章

第2章

第3章

第4章

第1章

第2章

第3章

第4章

# 音を出せないときは フラッシュで通知を受ける

Windowsではフラッシュする方法でも通知を受け取ることができます。音が出せない場所ではフラッシュによる通知を有効に変更しましょう。

# 通知の表示時間を長くして 見落としを防ぐ

デスクトップ右下に現れる通知ポップアップは場合によっては長い時間で見たいときがあります。表示時間を変更して通知の見落としを防ぐようにしましょう。

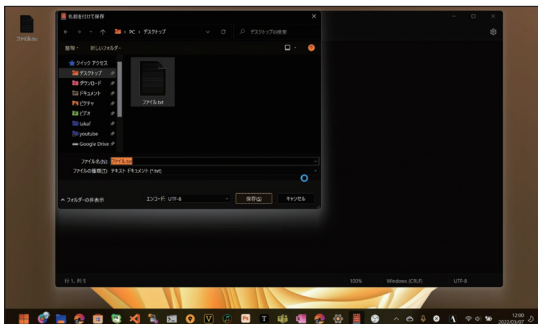
## フラッシュによる通知を有効にする



- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [アクセシビリティ] をクリックし、
- 3 [オーディオ] をクリックします。



- 4 [オーディオ通知中に画面を点滅させる] の項目のドロップダウンリストで [画面全体を点滅させる] を選択します。



これで通知や警告音があるときは画面がフラッシュ(点滅)することでお知らせしてくれます。たとえば、同じファイルで保存しようとするとき通常は警告音のみですが、この機能が有効な場合は、画面全体の色が変わって通知してくれます。

## 通知ポップアップの表示時間を変更する

通知ポップアップとは、たとえば、デスクトップ画面のスクリーンショットを撮ったあとや、新規メールを受信したときなどに右下に現れる小さなウィンドウのことを指します。



Windowsの初期状態では、この通知ポップアップのデフォルトの表示時間は5秒に設定されています。これをより長い時間に変更してみます。



- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [アクセシビリティ] をクリックし、
- 3 [視覚効果] をクリックします。



- 4 [この時間が経過したら通知を破棄する] の項目のドロップダウンリストでお好みの長さの秒数に変更します。

# Surfaceとスマートフォンを連携させて使う

Windows 11はスマートフォンと接続してさまざまな機能を連携することができます(2023年5月現在)。スマートフォンのカメラで撮影した写真を同期したり、電話をかけたりすることができます。ここではWindows 11とAndroidスマートフォンの連携方法を解説します。

第1章

第2章

第3章

第4章

便利技

## SurfaceとAndroidスマートフォンをBluetoothで接続する



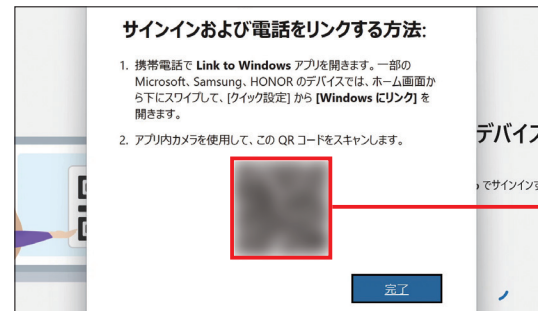
① あらかじめ、Google Play ストアを開いて「Windows にリンク」をインストールします。Google Play ストアで検索すると、すぐに見つかります。



② 「設定」アプリを開いて、  
③ [Bluetoothとデバイス] をクリックし、  
④ [スマートフォン連携を開く] をクリックします。



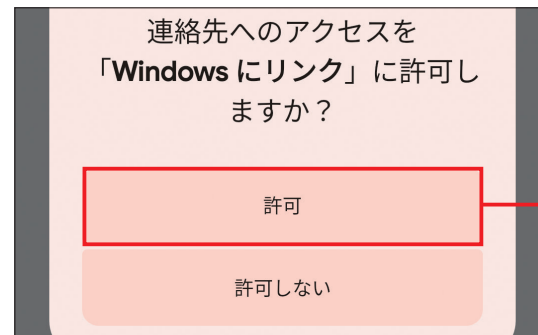
⑤ 「Windows にリンク アプリの準備ができました」にチェックを入れて、  
⑥ [QRコードでペアリング] をクリックします。



⑦ QRコードが出てくるので、これを「Windows にリンク」アプリを開いて読み取ります。



⑧ Android スマートフォン側でいくつかの許可を促されるのでそれに従います。



⑨ Android スマートフォンには許可が求められるダイアログが開くので、許可していきます。



⑩ 最後に左の画面になれば接続は完了です。Androidスマートフォンのほうにも同様の画面が表示されます。

**MEMO** ▶ タスクバーにピン留め  
Android スマートフォンと連携を多用する場合は、「スマートフォン連携」アプリをタスクバーにピン留めしておくとういでしょう。

第1章

第2章

第3章

第4章

便利技

# クリップボード履歴を使いこなす

以前のWindowsのクリップボードには1つの内容しか保持できませんでしたが、Windows 11のクリップボードでは標準で複数の内容を保持できるクリップボード履歴という機能が使えます。使いこなすとより効率的なコピー＆ペーストをすることができます。

## クリップボード履歴から貼り付けをする



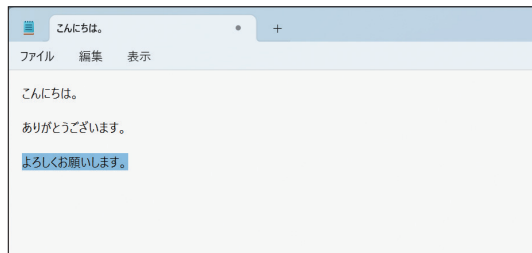
- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [システム] をクリックし、
- 3 [クリップボード] をクリックします。

### MEMO クリップボードとは

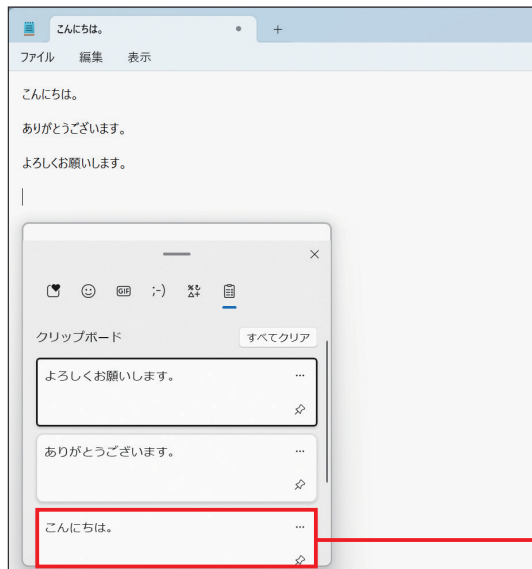
クリップボードとは、コピーした文字や画像などを一時的に保管してほかの場所に貼り付けて使用する機能です。



- 4 [クリップボードの履歴] の項目をオンにします。
- 5 これでクリップボードに複数のコピー内容を保管できるようになります。



- 6 次にクリップボード履歴から貼り付けする方法を解説します。
- 7 ここでは、複数の内容がクリップボードにある状態にするため、左の図の1文をそれぞれ **[Ctrl] + [C]** キーでコピーしておきます。



- 8 そして貼り付けたい場所にカーソルを合わせて、
- 9 **[Win] + [V]** キーを押します。
- 10 クリップボード履歴が表示され、過去にコピーした内容も貼り付けできるようになっています。
- 11 ここでは、2つ前にコピーした「こんにちは。」を選択します。



- 12 そのまま貼り付けが実行されます。

### OnePoint 画像もコピーできる

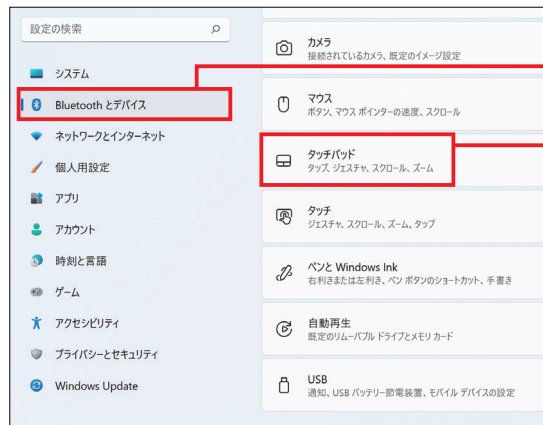
クリップボードには画像などもコピーしておくことができます。クリップボード履歴を使いこなすと作業効率が大幅に変わるでしょう。

# ジェスチャーに機能を自由に割り当てる

タッチパッドの便利なジェスチャー機能は、カスタマイズで特定の操作を割り当てることができます。自分のよく使う操作を割り当てるとその機能にアクセスしやすくなります。

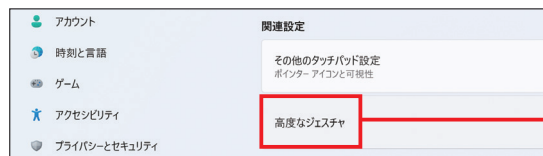
## 4本指ジェスチャーに特定の機能を割り当てる

初期状態の4本指の左右のジェスチャーでは仮想デスクトップの切り替えが割り当てられています。これを、右にスワイプすると左からウィジェットが現れ、左にスワイプすると右から通知センターが現れるように設定を変更してみます。

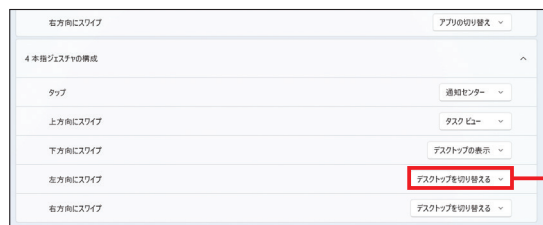


- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 [Bluetoothとデバイス] をクリックし、
- 3 [タッチパッド] をクリックします。

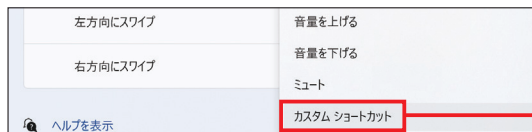
**MEMO** 表示されない場合  
Surface Proなどのタイプカバー型Surfaceはタイプカバーを外しているときの項目は表示されません。



- 4 ページ最下部の [高度なジェスチャー] をクリックします。



- 5 このページで3本指ジェスチャーと4本指ジェスチャーのそれぞれの操作に対して個別に機能を割り当てることができます。まずは4本指の [左方向にスワイプ] の機能選択ボタンをクリックします。



- 6 すでに用意されている機能がありますが、ここでは一番下の [カスタムショートカット] をクリックします。

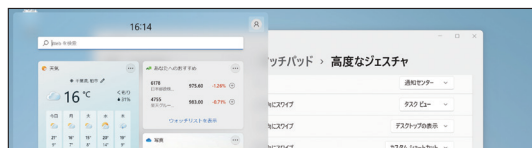


- 7 [記録を開始する] をクリックし、
- 8 「通知センターを開く」キーボードショートカットの [Win] + [N] キーを押して、割り当てます。
- 9 [記録を停止する] をクリックします。
- 10 同様の操作で、[右方向にスワイプ] に「ウィジェットを開く」キーボードショートカットの [Win] + [W] を割り当てます。

**MEMO** [Win] キー  
実際には、[Win] キーの設定は、[Left Windows] と表示されます。



- 11 設定すると、左方向にスワイプすると通知センターが現れます。



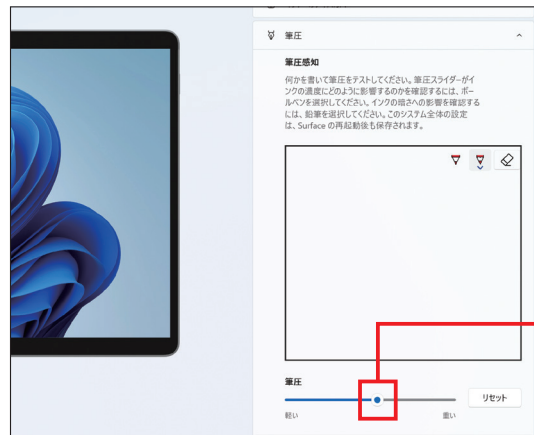
- 12 右方向にスワイプするとウィジェットが現れます。



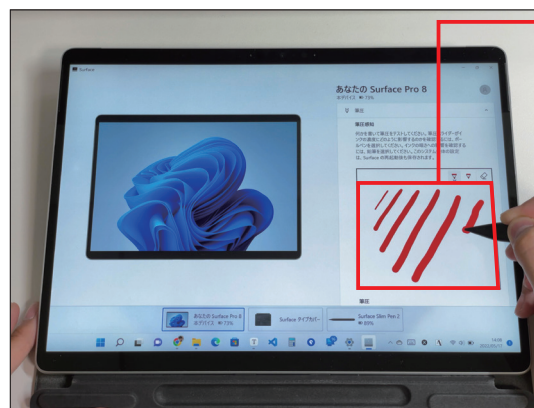
- 13 設定を元に戻すには、[4本指のジェスチャー] の [スワイプ] の項目で設定をするともとの動きにリセットされます。自分のよく使う操作を割り当てるとタッチパッドがより便利になります。

# Surfaceペンの 最適な筆圧を設定する

Surfaceペンで書き込むときに、筆圧によってペンで描く線の太さや鉛筆で書くときの濃さを変えたりすることができます。この反応レベルは自分好みの筆圧に設定することができます。Surfaceペンの筆圧設定は「Surface」アプリで設定できます。

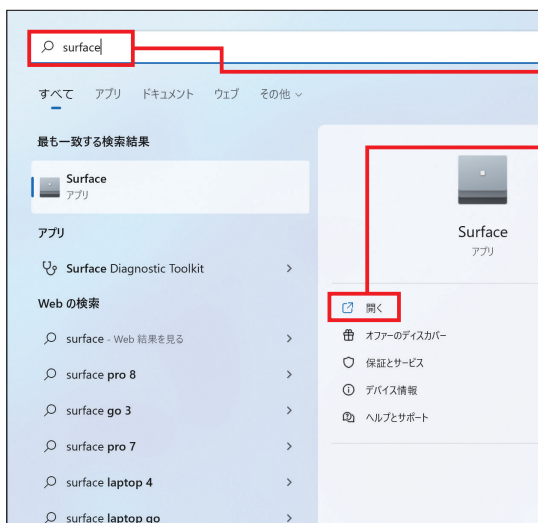


5 [筆圧] のスライダーをドラッグし、筆圧レベルを変更し、



6 それを [筆圧感知] の項目の四角の領域内で確かめることができます。自分好みの筆圧に設定してみましょう。

## SurfaceアプリでSurfaceペンの筆圧を設定する



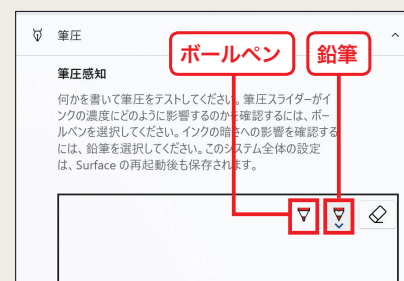
- 1 スタートメニューを開いて、
- 2 検索ボックスに「surface」と入力して、
- 3 検索結果の「Surface」アプリの [開く] をクリックします。



4 [筆圧] をクリックします。

### OnePoint 筆圧感知

四角内右上の左のボールペンで線の太さ、その右の鉛筆で線の濃さをチェックできます。また、[リセット] ボタンでいつでも標準設定に戻すことができます。筆者は標準設定の筆圧で十分でした。



# OneNoteをノート代わりに利用する

Windowsの純正ノートアプリであるOneNoteを使えば、紙に書いているかのようにノート代わりとして使うこともできます。特にSurface Proシリーズとの相性が抜群によく、Surfaceを使うならぜひ利用したい機能です。

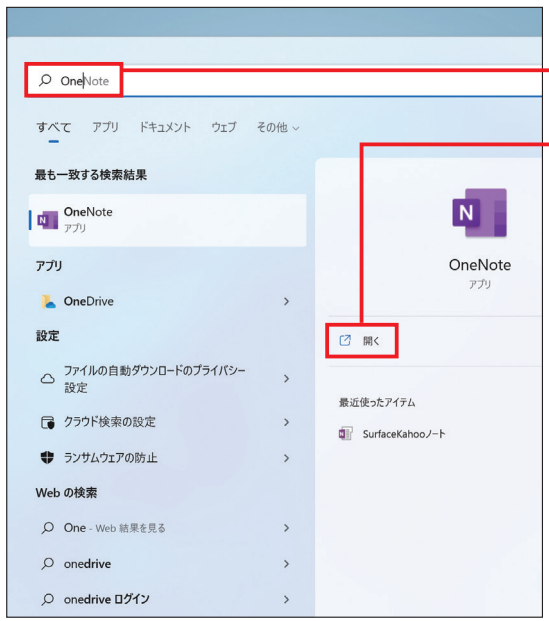
第5章

第6章

第7章

アプリケーション

## OneNoteをノート代わりに利用する

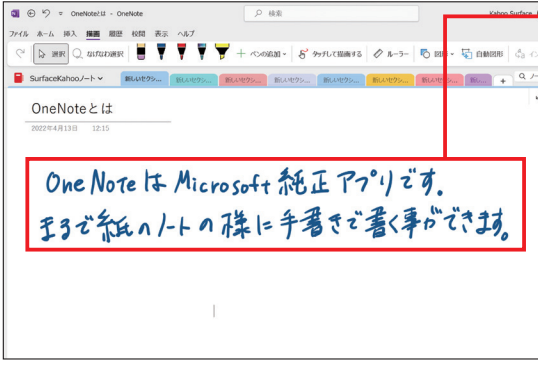


- ① スタートメニューを開いて、
- ② 「OneNote」と入力して、検索すると、
- ③ OneNoteが表示されるので、[開く]をクリックします。

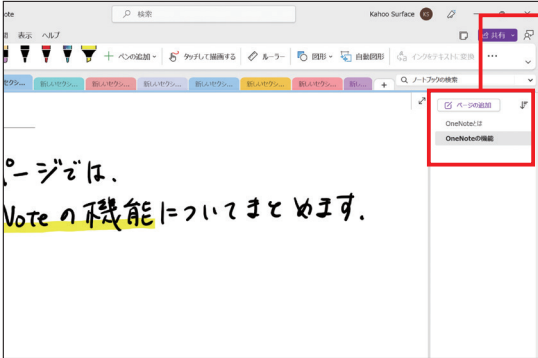
**MEMO** **ピン留め**  
よく使う場合はタスクバーにピン留めするとよいでしょう。



- ④ OneNoteを起動すると、
- ⑤ すぐ从这里から書き始められる状態となります。
- ⑥ 何も考えずにノートを書き始めると、あとから探すことが難しくなるので、最初にページタイトルを入力します。



⑦ Surfaceペンを使って書いていきます。



⑧ 複数ページを追加していても、ページタイトルを入力しておけば、右側のページ一覧で見つけやすくなります。

第5章

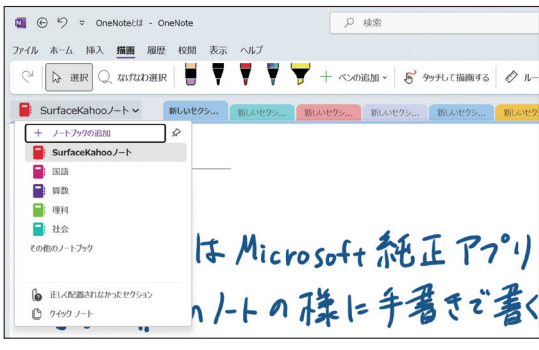
第6章

第7章

アプリケーション

### COLUMN OneNoteのノートの使い分け

OneNoteは[ノート]—[セクション]—[ページ]という親子構造で書いていきます。授業のノートとして複数の実際のノートを使い分けられているように、OneNote上でも複数のノートを使い分けるとよいでしょう。たとえば、学生の方で授業ごとにノートに分けるとしたら以下ようになります。



こうすれば複数のノートを持ち歩くこともないですし、OneNoteは書いたら即OneDriveというクラウドストレージに保存してくれるので紛失することもなくなります。使い方によっては大変便利なアプリとなります。ノート、セクション、ページにはそれぞれ名前を付けたり変えたりできるので、自分の目的に沿って名前付けをしていくとあとから探しやすく使い勝手よくなります。



SECTION

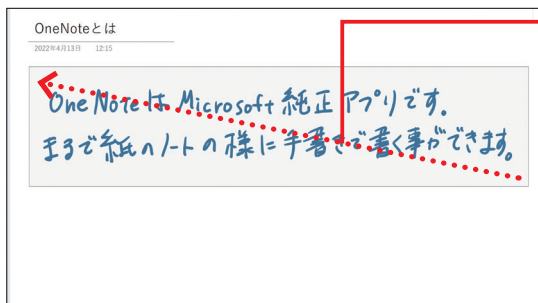
111

アプリケーション

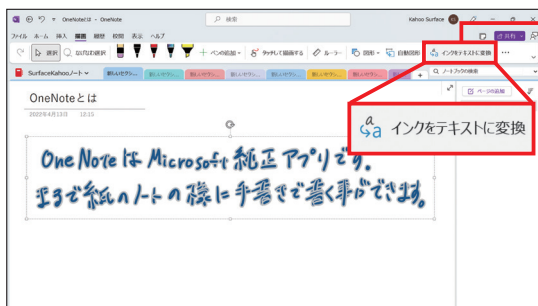
# 手書きした文字をテキストに変換する

OneNoteは手書きした文字をテキストデータに変換することができます。議事録はメモとして手書きで書き留めておいて、あとからテキストデータでメールで送信するなど、活用方法はいろいろあります。

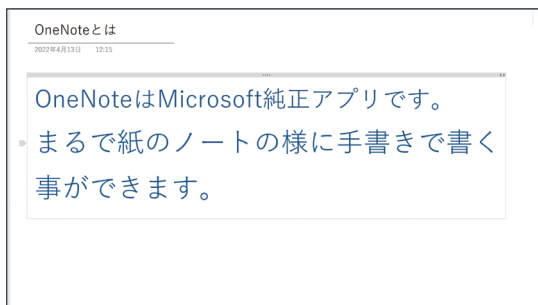
## 手書きした文字をテキストに変換する



① OneNote に手書きで書いた文字をマウスまたはタッチ操作で範囲選択をします。



② [描画] タブの [インクをテキストに変換] をクリックします。



③ 文字の大きさなどは調整が必要ですが、結構な精度でテキストデータに変換することができます。

SECTION

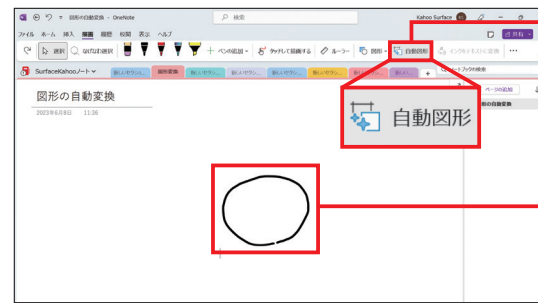
112

アプリケーション

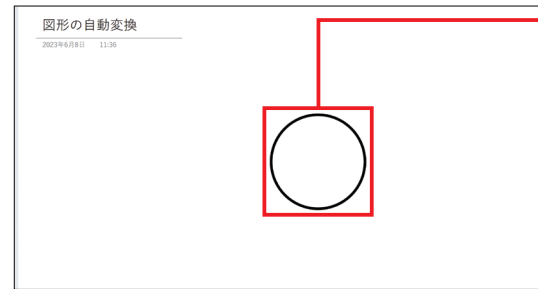
# 手書きできれいな図形やグラフを作成する

OneNoteは手書き図形を書くときれいな図形に変換してくれる機能があります。何かを図におこすときにすばやくきれいに図形を書いていくには大変重宝する機能です。

## 手書きできれいな図形やグラフを作成する

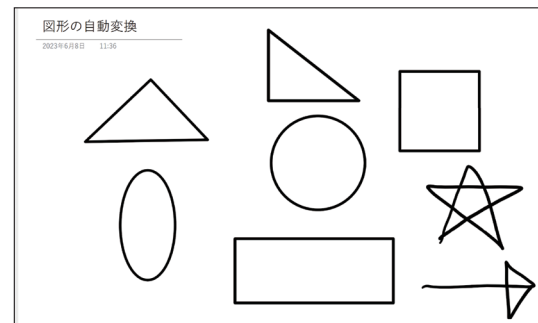


① [描画] タブの [自動図形] をクリックします。



② 図形（ここでは「丸」）を書くと、

③ 自動的にきれいな図形に変換されます。



④ 丸・三角・四角はきれいな図形に変換されますが、星などの複雑な図形は難しいようです。

MEMO 文字も変換

この機能を有効にしている間は、普通に書いた文字も図形に変換されてしまうことがあるので、必要に応じて有効にするとよいでしょう。

SECTION

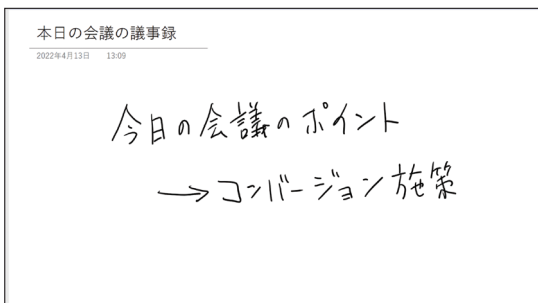
113

アプリケーション

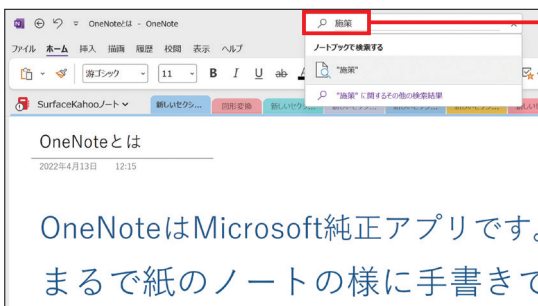
# OneNote上の文字をスムーズに検索する

OneNote上に書いた手書きの文字はあとからテキストとして検索することができます。たくさんのノートを書いても検索で見つけられるのはまさにデジタルノートがなせる技と言っても過言ではないでしょう。

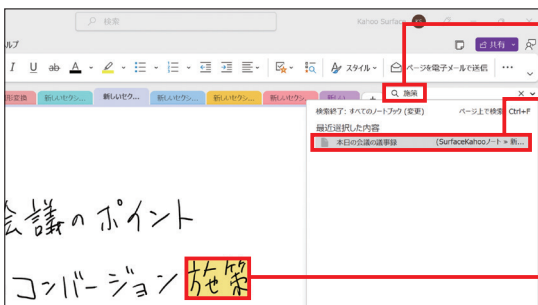
## OneNote上の文字をスムーズに検索する



1 たとえば、左のような手書きのページがあるとします。



2 別のページからアプリ上部の検索バーに「施策」と入力してみます。



3 右側に検索結果が表示されるので、  
4 ページ名をクリックすると、  
5 その部分に移動できます。手書き文字でも検索できる素晴らしい機能です。

SECTION

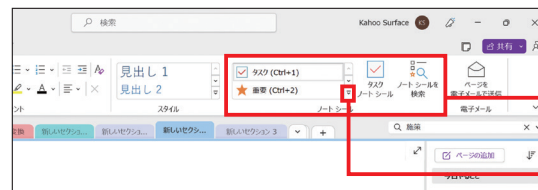
114

アプリケーション

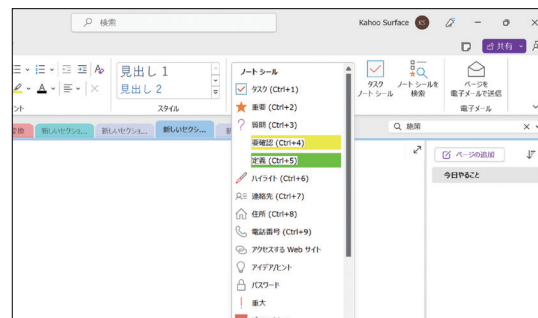
# ノートシールを追加して情報整理する

OneNoteにはノートシールという情報を整理するのに便利な機能があります。タスクや質問などをリスト化したいときに重宝します。ノートシールを使えばあとから検索もしやすくなるので積極的に使っていくとよいでしょう。

## ノートシールを追加して情報整理する



1 [ホーム] タブをクリックすると、  
2 [ノートシール] が表示されます。  
3 マををクリックすると、



4 一覧が表示されて、目的に応じて使うことができます。

MEMO クラシックリボン

リボンメニューの一番右の▼ボタンから、クラシックリボンがシンプルリボンにレイアウトを切り替えることができます。ここではクラシックリボンで説明しています。



5 たとえば、[タスク] のチェックボックスを選択すると、  
6 今日やることリストなどで活用できます。

OnePoint キーボードショートカット

[Ctrl] + [数字] キーのキーボードショートカットが最初から割り当てられているので、積極的に使っていくと情報が整理されてより使いやすいものとなります。[ノートシールを検索] ボタンで簡単にノートシールを検索することもできます。

# 子供が安全に 利用できるように設定する

子供が安全にパソコンを利用できるようにするには、Microsoftファミリーセーフティを活用しましょう。MicrosoftファミリーセーフティはMicrosoft謹製の無料サービスで、パソコンの使用時間やインターネットで閲覧できるサイトに制限をかけることができます。

第5章

第6章

第7章

セキュリティ

## Microsoftファミリーセーフティに子供用のアカウントを追加する

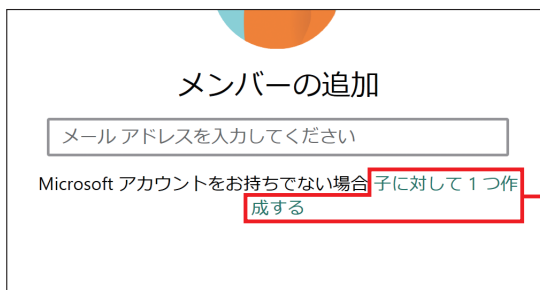
Microsoft ファミリーセーフティを使うには、まず子供用のアカウントを追加します。



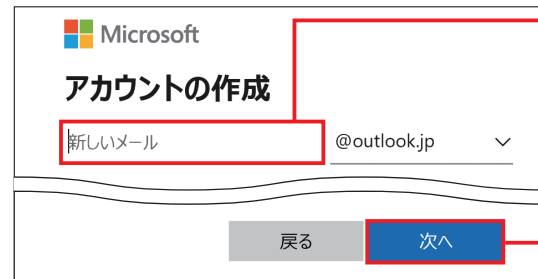
- 1 「設定」アプリを開いて、
- 2 「アカウント」をクリックし、
- 3 「家族」をクリックします。



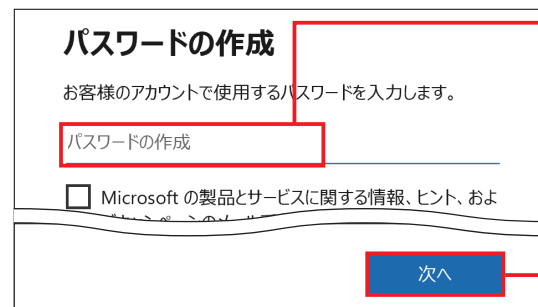
- 4 「家族」の項目の「メンバーを追加」をクリックします。



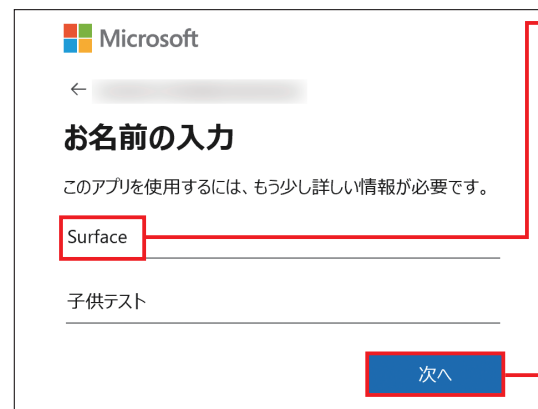
- 5 すでに子供用 Microsoft アカウントがある場合はここでメールアドレスを入力しますが、ここでは新しく子供用アカウントを作るものとして、[子に対して1つ作成する]をクリックします。



- 6 子供用アカウントとして任意のメールアドレスを入力します。ここでは、@よりも左側の文字を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。



- 8 この子供用アカウントで使用するパスワードを入力して、
- 9 「次へ」をクリックします。



- 10 このアカウントを使う子供の名前を入力して、
- 11 「次へ」をクリックします。



- 12 生年月日を入力して、
- 13 「次へ」をクリックします。

第5章

第6章

第7章

セキュリティ